

おいしい米づくり情報 庄内大豆通信

庄内総合支庁農業技術普及課

TEL:0235(64)2103

FAX:0235(64)2104

緊急号

平成22年7月28日

高温・干ばつに要注意!!

梅雨明けから高温・少雨の日が続いています。

大豆は開花期となり、水稻の出穂も平年より2～4日程度早まると予想されています。

水稻も大豆も、出穂期・開花期は多量の水を必要とします。

水稻は間断かん水、大豆は畝間かん水(可能なほ場では地下灌漑)を行い、植物体の消耗を抑え、品質向上に努めましょう。大豆は、開花期の水不足で着莢数が減少し、減収につながりますので、特に注意しましょう。

1. 水稻

出穂期までは、2日湛水・2日落水を基本とする。

開花期は特に水分を必要とするため、湛水状態を維持する。

特に高温となった場合は、湛水し、地温を下げる管理とする。

2. 大豆

畦間の土壌が乾燥し白乾亀裂を生じる場合は、畦間かん水が効果的である。

開花期から約2週間が特に効果的である。

ほ場全体に、均一に水が行き渡る量とし、過度のかん水を避ける。

30a規模のほ場では、入水から3日程度かけ、徐々にかん水する。

地下灌漑が可能なほ場では、地下水位を40～50cmに制御する。

ゆとりを持った作業で農作業安全
熱中症対策も忘れずに!